

ほなみの広場 生活単元学習活動案

男子 4名 女子 2名

場所 図工室

授業者 T1 鈴木典子・T2 国井千珠子

1 単元名 おやつをつくろう ーじゃがいも へんし〜ん！ー

2 ほなみの広場の子どもたち

本学級は、1年2名、2・3年各1名、5年2名の知的障がい特別支援学級である。教科の学習に関しては、学年や実態に応じて個別に学習することが多い。生活場面では、上級生が下級生に優しく教えてあげたり、仲よく遊んだり、学年を超えてかかわり合う姿が見られる。しかし、こだわりが強く、自分の興味・関心で一方的に話したり、一人で好きなことをしていたり、授業者にくっついていたり、子ども同士ではうまくかかわり合えない場面もある。経験不足でできないことが多いため、自分ではなかなかやろうとせず、身辺処理で支援を要する子どもも少なくない。

学校で調理することには、全員が喜んで取り組む。誕生会では、主役のリクエストで食べるものを決め、楽しみながら調理している。水の代わりに絹ごし豆腐を使っただんごが気に入り、豆腐が嫌いなのに自分の誕生会にリクエストし、給食のおかずの中の豆腐も少しずつ食べるようになった子どももいた。簡単なおやつを作ってみることが、小食、偏食の子どもにとって、調理すること、食べることへの興味や意欲をもつきっかけになっている。

今年度は、だんご、パンケーキ、初収穫したなすとピーマンを使った炒めものなどの調理をしたが、調理経験や技能の差は大きい。手元を注視することが難しかったり、手指の力が弱かったりするので、道具の操作に苦勞し、特に刃物を使うときには大人の見守りや支援がかなり必要である。家庭でのお手伝い経験も乏しく、「学校で初めて〜した。」という子どもが多い。これまでも調理に取り組んできたが、いずれも学校のみで終わってしまい、家庭でやってみることはなかなかつながらなかった。また、昨年度の始めの頃は、誰かにご馳走しようという思いにいらす、家族へのおみやげとして持ち帰ったものも全部自分で食べてしまう子どももいた。そこで、意図的に、スイートポテトを繰り返し作りプレゼントするという体験をしたところ、相手が喜んでくれることで自分もうれしいと感じることができたようである。

今年度は、さらに「自分でできる。」「家でも作れる。」と主体的に取り組み、生活に生かしていくことを目指している。夏休み前に、材料や道具、作業工程が少ない簡単なおやつ「チーズせんべい」を作ったところ、はりきって「家でも作りたい。」と自分で書いたレシピと道具を持ち帰った。実際に、数人から家で作って家族で食べたという報告があり、昨年度より主体的に取り組むようになってきていることを感じる。

3 教材について

本単元は、学級で栽培したじゃがいもの収穫や調理を通して、食に対する興味を高めていくことを目指している。

調理活動は、自分で調理して食べるという明確な目的、調理する楽しさ、味わう喜びがあり、一人一人が主体的に取り組むことのできる興味・関心の高い学習活動である。見通しをもち、段取りする力を育てることに役立つ。また、おいしい物を作って食べようと楽しみながら繰り返し取り

組む中で、ピーラーやスライサーの刃の部分に気をつけ、高温になる加熱調理器具に触れないように調理するなど安全面についても具体的に学べる。じゃがいもは、ほくほくになったり、カリカリになったり、もちりしたりいろいろな食感、お菓子に変身させることができる食材である。自分たちで収穫したじゃがいもが変身するおもしろさ、味わう楽しさを感じ、調理できたことに達成感をもつことで、今後さらに生活単元学習への意欲も高まると考える。そして、「家でも作ってみたいな。」「～に食べさせてあげたいな。」という思いが自然にわいてくると予想される。友だちや家族に食べてもらって、おいしいと喜んでもらうような体験を重ねれば、将来の自立に必要な自己有能感の育成にも役立つと考える。

4 子ども中心の単元づくりを目指して

(1) 単元の目標

- ・自分たちで栽培・収穫したじゃがいものおやつを作って食べることに意欲をもって取り組むことができる。
- ・手元をよく見て、ピーラーやスライサーなどの調理道具を使い、調理することができる。
 - A～D 児：手元を見て、安全にじゃがいもの皮をむいたりスライスしたりすることができる。
授業者の指示を聞き、友だちの真似をして、作業することができる。
 - E 児：指示を聞いたりレシピを見たりしながら、道具を安全に使って調理することができる。
 - F 児：指示を聞いたりレシピを見たりしながら自分で調理し、さらに、困っている友だちを助けてあげることができる。
- ・調理に必要な主な材料や道具、大まかな手順が分かり、簡単なレシピに表すことができる。
 - A 児：主な材料や道具を挙げ、大まかな手順を表現することができる。(視写)
 - B・C・D 児：主な材料や道具、作り方を示すキーワードや写真を選んでレシピに表すことができる。(B 児：主になぞり書き。C 児：なぞり書きと視写。
D 児：手元のお手本を見て視写。)
 - E・F 児：主な材料や道具、大まかな手順が分かり、自分なりの表現でレシピに表すことができる。

(2) 単元構成について

自分たちで育てて収穫したじゃがいもを、まずは、授業者と一緒に調理して食べ、調理の仕方によってカリカリになったり、もちのようになったり違った食感になる変化を体験する。また、味付けを変えて楽しみ、「もっと作りたい。」と意欲的に取り組み調理できる構成にする。

授業者と一緒に調理している時に写真を撮り、調理の手順を想起しやすいようにして、レシピを作る。それをもとに、できるだけ自らの力で協力して調理し、家でも作ってみようとする意欲をもてるようにしていく。子どもの実態に応じ、自ら援助を求められるようにするために、適切な表現を教えていく。また、安全面や家庭での調理器具の使用状況を考慮し、必要な場面で授業者に確認や援助を求めるよう、事前に具体的に指導する。調理活動においては、道具を順番に使ったり、友達の作り方を真似たり教え合ったりしやすいように2～3人組で作業し、後片付けも分担、協力してする。また、じゃがいもをスライスしたりすりおろしたりする時は、安全に作業できる大きさでやめ、小さくなったいもは取っておいてマッシュポテトやじゃがバターなどに利用する。

収穫した時に大きさや重さを比べたり、授業者と一緒に調理する時に材料や道具の名称、調理の

動作を示す動詞，食感を表す言葉などを意識して使ったりし、算数や国語など他教科と関連づけながら取り組んでいく。また、今後の生活単元学習で、さつまいもやポップコーンなど他の収穫物を使ったり、クリスマス会、誕生会、進級を祝う会などの機会に合わせたりして継続的にお菓子作りをしていく。

(3) 目指す子どもの姿にせまるための手立て

① 学習課題に自分事として取り組んでいる子ども（自分事）

- ・構造化された支援をする。
子どもたちにとって、材料や道具、手順が複雑に見えると、授業者の支援に頼る場面が多くなり、主体的に取り組めなくなることが予想されるので「できそう」「簡単そう」とやる気もてるようなレシピにし、道具や場を工夫する。
- ・スモールステップでレベルアップし、変化のある繰り返して飽きずに成功体験を積めるようにする。

② 自分の考えを伝え合っている子ども（伝え合う）

- ・自分の体験を友だちと共有できるように、気軽に話し合い、教え合う時間が取れるように配慮する。
- ・一緒に食べながら、自然に「おいしいね。」「また作ってみたいね。」などの会話や笑顔が出るような場を作っていく。

(4) 予想される子どもの学び (33M扱い 本時25～28M)

M	学習活動(○)と予想される子どもの姿(・)	主な留意点と(・)評価(◇)
1 ～ 6	<p>いもほりをしよう。</p> <p>○傷つけないようにていねいに掘り出す。</p> <p>・ あった！見つけたよ！</p> <p>・ 大きいぞ！</p> <p>・ もっとないかなあ。</p>	<p>・ 長靴や軍手などを着用し、汚れなどを気にせずに掘ることができるようにする。</p> <p>・ T1 は全体への指示、T2 は掘りたがらない子どもへの支援を中心に行う。</p> <p>◇一生懸命土を掘り、収穫することができたか。</p> <p style="text-align: right;">【活動】</p>
7 ～ 9	<p>たべてみよう。</p> <p>○レンジで加熱して食べてみる。</p> <p>・ ジャがバターがいいな。</p> <p>・ 塩こしょうがいいな。</p>	<p>・ 収穫の喜び、食べたい、調理してみたいなどの気持ちを大切に、収穫した日に食べてみる。</p> <p>・ 食べたことのある（食べたい）じゃがいものおやつを出し合う。</p>
10 ～ 13	<p>じゃがいもへんしん！おやつをつくらう。</p> <p>○授業者と一緒に作って食べてみる。</p> <p>(1) スライスして、チンしてみよう。</p> <p>～ポテトチップス(味付けの工夫)</p> <p>・ カリカリになって、おいしい。</p>	<p>・ 安全に意欲的に調理に取り組めるように、レシピや道具の配置を工夫する。</p> <p>・ 調理中の様子を写真に撮り、レシピ作りに活用する。</p> <p>・ 味に変化をつけ、食べ比べて楽しめるよう、複数</p>

14 ～ 16	<p>→チンしてつぶしてみよう。 ～マッシュポテト</p> <p>(2) すりおろして、チンしてみよう。 ～じゃがもち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もちみたいになっちゃった。 <p>○もう一度作ってみたいお気に入りのおやつを選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何にしようかなあ。ポテチがいいかなあ。もちもおもしろかったなあ。 	<p>の調味料を用意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料や道具などの名称、動作や食感を表す言葉などを調理中にも意識的に使って、言葉に慣れるようにする。 ・T1 は主に全体に目を配りながら活動を進行し、T2 は写真を撮ったり、活動に参加することが難しい子どもへの支援をしたりする。 <p>◇授業者と一緒に調理することができたか。【活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分事として意欲的に取り組めるように、作りたいおやつを選択できるようにする。
17 ～ 23	<p>レシピをつくろう。</p> <p>○もう一度作ってみたいお気に入りおやつのレシピを作る。</p> <p>○写真を見ながら、前時の調理の様子を思い出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塩味のポテチおいしかったなあ。 ・芽をとるのが難しくて、手伝ってもらったよ。 ・もちみたいに、ねばねばになってびっくりしたよ。 <p>○材料や道具、調理の手順を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピーラーで皮をむいたよ。 <p>○写真を貼ったり、単語や文を書き込んだりして簡単なレシピを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やったあ。これ見たら、自分で作れるよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じおやつを選択した子ども同士、気軽に話し合えるように時間を作る。 ・どんな道具を使ったのか、どのように調理したのかななどを思い出しやすいように写真を提示する。 ・写真を順番に並べながら、大まかな手順を思い出せるようにする。 ・作り方を示すキーワードを書いたカードを用意しておき、子ども達から適切な言葉が出てこない時には、選択できるように示す。 ・T1、T2 で手分けして、支援する。 <p>◇写真を順番に並べたり、作り方にかかわることを言ったり、キーワードを選択したりして、調理の手順を思い出し、レシピに表すことができたか。</p> <p style="text-align: right;">【発言・レシピ】</p>
24 ⑳ ～ ㉑ 本 時	<p>じぶんたちでつくろう。</p> <p>○調理の準備をする。</p> <p>⑳ ○レシピを見ながら、できるだけ自分たちの力で調理し、食べる。</p> <p>㉑</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次は、どうするんだっけ。 ・～くんは何してるかな。 ・次は、レシピのここだな。 ・～を手伝ってください。 ・見て（確かめて）ください。 ・教えてください。 ・おいしい！ ・家でも作ってみたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者は、グループ毎に主担当を決めて見守る。T1 は主に活動を進行し、T2 は一緒に活動することが難しい子どもへの支援をする。 ・道具を交代して使ったり、教え合ったり友達の作り方を真似たりしやすいように、2～3人組で調理する。 ・できるだけ直接的な支援はせずに見守るが、作業の様子をほめ、安心して取り組めるようにする。 ・オープンレンジは2～3台使用するが、機能の差があるので、操作時には必要に応じて見守ったり、援助したりする。 <p>◇レシピを見たり、友だちを真似たり教え合ったり</p>

29	<p>○後片付けをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・僕は、スポンジ係だよ。 ・泡が残らないようにすすぐね。 	<p>してできるだけ自分たちで調理することができたか。 【活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗い方や分担の仕方などを事前に確認し、協力して後片付けができるようにする。 <p>◇協力して後片付けをすることができたか。【活動】</p>
30 ～ 33	<p>ふり返ろう。</p> <p>○感想を言ったり、作文や絵に表したりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちでうまく作れたことを実感し、家でも作ってみようとする気持ちがわくように具体的にほめる。 <p>◇自分なりの言葉や絵などで表現することができたか。 【表情や身振りや言葉・活動】</p>

5 本時の学習 (25～28 / 33 M) 途中休憩を入れながら、6 M 続きで学習する。

24 M で準備や身支度をしておき、29 M で後片付けをする。

(1) 目標

- ・じゃがいものおやつを作って食べることに意欲をもって取り組むことができる。
 - ・ピーラーやスライサーなどの調理道具の使い方に慣れ、手元をよく見て調理することができる。
 - ・困ったときに援助を求めたり友だちと教え合ったりして、できるだけ自分たちで調理することができる。
- A・D 児：レシピを見たり、分からないところは友だちの真似をしたり質問したりして、調理することができる。
- B 児：友だちの真似をしたり困ったときに意思表示して教えてもらったりして、調理することができる。
- C 児：授業者に促されなくても、自発的に友だちの真似をしたり困ったときに意思表示して教えてもらったりして、調理することができる。
- E 児：レシピを見ながら、分からないときには質問して調理することができる。グループ内で順番を待って交代するなど、一緒に作業することができる。
- F 児：レシピを見ながら、分からないときには質問して調理することができる。また、困っている友だちに教えてあげることができる。
- B・C・D 児：手元をよく見て、安全に気をつけて調理することができる。

(2) 本時で求める姿

- ・できあがりを楽しみに、自作のレシピを見たり友だちを真似たりしながら調理する姿。 (自分事)
- ・困ったときに援助を求めたり、友だちと教え合ったりしながら協力し合う姿。 (伝え合う)
- ・お互いにご馳走し合ったり、感想を伝え合ったりする姿。 (伝え合う)

(3) 学習活動の展開

学習活動と (○) 予想される子どもの姿 (・)	留意点や支援 (・) と評価 (◇)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> じぶんたちで、じゃがいものおやつをつくらう！ </div>	
<p>1 自作のレシピを見ながらおやつを作る。</p> <p>○洗う、皮をむくなど、レシピの順番に沿って作っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次は、どうするんだっけ。 ・～くんは何してるかな。 ・次は、レシピのここだな。 ・芽が残ってないかな。 ・～を手伝ってください。 ・見て（確かめて）ください。 ・教えてください。 ・ありがとう（ございます）。 <p>○盛りつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やったあ、できたぞ。 <p>2 食べる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おいしいね。 ・僕の～味、どうぞ。 ・～君の～味おいしいね。ありがとう。 ・また、作ってみたいな。 ・家でも、できそうだね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎に異なる物を作成する場合もあるので、T 1、T 2 が分担して見守る。自分事としてレシピを活用しやすいようにする。 ・何をするか分からずに作業が止まっている子どもには、自作のレシピを見たり近くの友だちを真似たり友だち同士で教え合ったりするよう促し、直接的な支援はできるだけ控える。ただし、じゃがいもの芽をとったり、オーブンレンジを使ったりする時など、必要な場面で、子どもたちの働きかけを待ち、確認や支援をする。 ・一緒に調理することが難しくなった子どもがいたら、場所を変えるなどし、T 2 が見守る。 <p>◇できあがりを楽しみに、意欲的に調理することができたか。 【活動】</p> <p>◇それぞれ個別の目標が達成できたか。 【身振りや言葉・活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いに、ご馳走し合えるようにする。 ・出来栄だけでなく、調理中の子どもたちのがんばりや教え合っていた様子などを具体的に話してほめ、子どもたちが達成感を感じ、家でも作ってみようという意欲がわくように働きかける。 <p>◇楽しく食べたり、家でも作ってみようという意欲がわいたりしたか。 【表情や身振りや言葉・活動】</p>

* 本時の授業者の動き

- T 1 : 主に活動を進行する。E 児のいるグループ以外の見守りを中心にしつつ、全体に目を配る。
- T 2 : 主に E 児のいるグループを見守る。一緒に活動することが難しくなった子どもがいた場合、場所を変えるなどの支援をする。